

出雲梅

〜実

名にし負ふ津の国の

梅のなにはの故事は

木花咲耶姫神の

いろに出雲の結び文

その仮名書の

かず〜を

〜まつ初春はさきがけの

恋と云ふ字も白梅に

〜振りの袂の手まり唄

ひと夜にニ夕夜

逢う社

〜三筋もあせに青梅のしづくに濡れし手枕は

さめて嬉しき袖の梅

〜八朔梅や雪の梅

まだ解けかぬる海苔の名は

十六しまの矢の字帯

笹鳴き初むる

うぐひすの春鶯囀の舞の曲

〜池のみぎわの亀の背に

亀の遊ぶやぬるみ川

末白浪を結び合ふ柏の若葉むらさきの

雲井に高き梅が香も

四季の香りぞ目出度けれ。